令和７年度　江戸川区立臨海小学校　学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	◎　思いやりのある子 ○　よく考える子 ○　じょうぶな子		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	今日が楽しく明日が待ち遠しい学校 思いやりのある子　よく考える子　じょうぶな子 人間性豊かで、優れた授業力があり子供から尊敬される教師
前年度までの本校の現状	成果	○授業や行事を通して、互いを認め合う児童の姿が見られた。 ○特別支援コーディネーターや関係機関と連携し、個に応じた指導の充実が図れた。 ○連絡ツールやホームページの活用により、保護者との情報共有を円滑に進めることができた。 ○効率的に業務を進め指導の充実に時間を活用できるよう組織改革を行うことができた。	課題	○自分も相手も思いやり、気持ちだけでなく行動で表すことができる児童の育成を目指す。 ○学力・体力の向上を進めていくため、分掌組織を活用した組織的な対応と研究・研修・OJTをうまく活用した指導力向上が必要である。 ○情報の発信の仕方をさらに工夫し、保護者・地域との協力を強める。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」 自己（学校）評価(A～D)		「中間」 学校関係者評価(A～D)		「年度末」 自己（学校）評価（A～D）		「年度末」 学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				９月	２月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○学力調査の活用	○全国・区の学力調査を活用し、指導方法の工夫改善を図る。	区の学力調査において、正答率１学期比１０％向上をめざす。											
		○学校と民間企業による放課後補習教室の実施	2～6年について、個別の支援を行い、基礎学力の向上を目指す。											
	○読書科の更なる充実	○学校図書館の活用が活発になるよう、図書館司書及び図書ボランティアとの連携を強める。	月１回、図書館司書と図書ボランティアの情報を司書教諭を通して共有する。											
体力の向上	○個の実態に応じた運動意欲や基礎体力の向上	○新体力テストを活用して個の実態把握を行い、体育の授業内容に反映する。	新体力テスト実施後、児童一人一人の体力の現状及び学級の実態を把握し、授業改善を行う。											
		○年間通して行うなわ跳びチャレンジウィークなどの体育的行事を通して、運動の日常化・習慣化を目指す。	各体育的行事において、児童の運動意欲を高められるよう学習カードなどを工夫する。											
			各学習カードについて、児童の目標達成率９０％以上を目指す。											
共生社会の実現に向けた教育の推進	○個に応じた指導の充実	○校内特別支援部を中心に教員及び児童に向けた理解推進教育を進める。	毎月の校内特別支援部の中で具体的事例をもとにこの特性に応じた指導方法の開発・共有を図る。											
		○エンカレッジの活用	４月中にエンカレッジ対応のシフトを作成し、学級担任が依頼しやすい環境を整備する。											
		○交流および共同学習の充実	特別支援学校との副籍交流やかもめ学級と通常の学級の交流および共同学習を行い、月１回程度交流の様子を発信する。											
不登校・い	思いやりのある子の育成	○学校・学年・学級それぞれで役割分担し、日常の様々な場面で思いやりのある子の育成を目指す。	毎週の校長講話を活用し、子供同士が「違い」を尊重し、安心して過ごせる学校を目指す。											

いじめ対応の充実	L-GATEの活用	○L-GATEを活用した児童の実態把握及び学級・学年運営への活用推進	毎日L-GATEの入力状況を確認し、児童の変化に気付く。											
	○教育相談の強化	○区教委より示されたSSWの役割に基づき、SCとの連携を図ったより有効な運用を行う。	４月中にSSWの校内での役割について配置されたSSWと確認し、要対応児童について情報共有を行う。											
地域社会に開かれた学校（園）の実現	○学校ホームページ及び保護者連絡ツールの活用	○学校ホームページの充実を図り、地域・家庭との情報共有を密にすることで教育効果の向上を図る。	すべての学年について週に１度は学習の様子を発信する。											
		○保護者連絡ツールにおいて、写真などを有効に活用して児童の活動の様子を伝える。	学級だよりや毎月の学年だよりに、学習の様子がより伝わるよう児童の表情がわかる写真を入れる。											
	○学校関係者評価の充実	○児童・保護者・地域へのアンケート調査を実施し、結果をふまえた成果と課題を発信する。	１２月までに児童・保護者・地域それぞれに対してアンケートを行い、分析する。											
特色ある教育の展開	○指導力の向上	○若手主体の研修・OJTにより教員個々の実態に応じた指導力向上を図る。	年７回以上の若手研・情報研を実施する。											
	○効率的な学校運営	○学校運営組織の改善を図る。	２か月に１回程度、組織運営の様子について企画委員会で確認し、改善策の検討を行う。											
	○教職員のワークライフバランスの充実	○一斉退勤日を活用し、教職員の業務マネジメント意識の向上とプライベートタイムの充実を図る。	月１回の一斉退勤日を見通した校務遂行の奨励し、時間外勤務３５時間以上の教職員０を目指す。											